

科目名：成人看護学概論	配当年次 1 年	開講時期 1 年後期
単位・時間：1 単位（30 時間）	授業の方法：講義	
担当者：那須 幸子	実務経験のある教員による授業 □	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】 基礎看護学概論で学んだ看護の対象と関連させて、成人期にある人の特徴を理解する。さらに、成人期の健康は生活環境、社会生活および加齢現象などの影響を受けることを強調し、健康生活を育む健康行動と、健康生活を支援する環境づくり・ヘルスプロモーションに焦点を当てた看護を学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける成人期の位置づけ、成人看護の役割・対象を理解する。 2. 成人期における健康の意味と保健活動の重要性を理解する。 3. 成人看護学に活用される理論を理解する。 4. 健康レベルと経過別看護の特徴を理解する。 	
授業の計画	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 成人と生活 <ol style="list-style-type: none"> (1) 成人各期の発達と特徴 (2) 成人期の生活の特徴 3. 4 生活と健康 <ol style="list-style-type: none"> (1) 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 (2) 生活と健康をまもりはぐくむシステム 5. 6. 7 成人への看護アプローチの基本 (演習) <ol style="list-style-type: none"> (1) 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助 (2) 症状マネジメント (3) 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 (4) 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ (5) チームアプローチ (6) 看護におけるマネジメント (7) 看護実践における倫理的判断 (8) 意思決定支援 (9) 家族支援 8 ヘルスプロモーションと看護 9 (演習) 健康をおびやかす要因と看護 10 (演習) 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 11 (演習) 慢性病とともに生きる人を支える看護 12 (演習) 障害がある人の生活とリハビリテーション 13 (演習) 人生の最後のときを支える看護 14 (演習) さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援 新たな治療法、先端医療と看護 15 筆記試験及び解説 	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<p>【教科書】 系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護学総論、基礎看護学[4] 臨床看護総論、健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生・[3] 社会保障・社会福祉 医学書院 e テキスト 図説 国民衛生の動向 2024/2025</p> <p>【参考文献】 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護、別巻 緩和ケア</p>	
履修上の注意事項	講義ごとに関係する国家試験問題を出题する。復習・試験対策として活用すること。	

科目名：成人看護学方法論Ⅰ (生命危機にある人の看護)		配当年次 2年	開講時期 2年前期
単位・時間：1単位(30時間)		授業の方法：講義	
担当者：那須 幸子		実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 社会的な責任が要求される成人期にある人が、突然の主要臓器の病変や身体に急激な侵襲を与える治療を行った時の異常の早期発見・回復促進・心理的社会的危機の回避・日常生活行動の支援を理解する。 【目標】 1. 人間が生きていく上での基盤となる生命機能(呼吸・循環・脳神経)のメカニズムを理解し、保持増進のための成人保健活動の重要性を学ぶ。 2. 生命維持機能の障害により、生じる症状が成人期にある人の発達課題・自己実現にどのように影響していくのかを理解する。 3. 周手術による生体への侵襲が理解でき、侵襲を最小限にし、早期に社会復帰がはかれるための看護を学ぶ。		
授業の計画	1. 2. 3. 4 周手術期にある人の特徴と術前・術中・術後の看護 (1) 手術侵襲による神経・内分泌反応、生体調節機構関連図作成 (2) 術後合併症関連図作成 (3) 外科的侵襲から回復期の生体反応 (4) 術前の看護/術中の看護/術後の看護 5. 6. 7 成人期に発症しやすい呼吸器疾患とその疾病の特徴 (1) 呼吸困難患者の看護 (2) 気胸患者の看護 (3) 肺がん患者の看護 8. 9. 10. 11 成人期に発症しやすい循環器疾患とその疾病の特徴 (1) ショック患者の看護 (2) 心不全患者の看護 (3) 虚血性心疾患患者の看護 12. 13. 14 成人期に発症しやすい脳神経疾患とその疾病の特徴 (1) 意識障害患者の看護 (2) 頭蓋内圧亢進患者の看護 (3) クモ膜下出血患者の看護 (4) 神経伝達障害患者の看護 15 筆記試験及び解説		
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%		
テキスト	【教科書】 系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器、[3]循環器、[7]脳・神経、臨床外科看護総論 医学書院 e テキスト 【参考文献】 適宜講師より紹介		
履修上の注意事項			

科目名：成人看護学方法論Ⅱ (生体防御を脅かされる人の看護)	配当年次 2年	開講時期 2年後期
単位・時間：1単位 (30時間)	授業の方法：講義	
担当者：中澤 健二 丸山 南海	実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>	
診療看護師・特定看護師・がん専門看護師として実務経験のある看護師が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行う。		
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】 近年は急速な少子高齢化の進展や、慢性疾患の増加など疾病構造の変化、医療技術の進歩、看護業務の多様化や意識の向上など様々なことが大きく変化している。 それに対応するために、細胞浸潤しやすく、生体防御が脅かされる疾患の特徴を知り、その看護の役割と看護の機能を理解する。さらに終末期にある人の特徴を知り、患者と家族に応じた看護を学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫防御機能の低下および悪性新生物罹患時の特徴と、治療・検査の意味を理解する。 2. 成人期にある人の生体防御が脅かされたことにより、発達課題や自己概念、身体的・心理・精神的・社会的側面に受ける影響を理解する。 3. 成人期の特徴を踏まえ、患者と家族の死の受容に応じた援助や、それまでの生活を尊重した援助の必要性を学ぶ。 4. 終末期におけるその人の最期が、人生の終焉にふさわしいとすることができるような看護を理解する。 	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 患者・家族の気持ちに寄り添うケア コミュニケーションとは／がん患者の心理的反応と精神症状／ 精神症状のマネジメント／精神的アプローチ方法／がん患者との コミュニケーションの実際／終末期にあるがん患者家族のケア 3. 4. がん患者の緩和ケア 疼痛マネジメント／呼吸困難のマネジメント／悪心・嘔吐のマネジメント ／便秘・下痢のマネジメント／倦怠感のマネジメント 5. 6. がん看護 治療を受ける患者の看護 7. 8. がん薬物療法／放射線療法／免疫療法／緩和ケア 9. 10. 生体防御を脅かされる人の看護 11. 12. (1)感染症／HIV 感染症／敗血症 (2)血液・造血器／白血病 (3)輸血療法 (4)膠原病／関節リウマチ・全身性エリテマトーデス 13. 14. 終末期の看護 (1)人生の終焉にふさわしい看護 (2)ホスピス (DVD 視聴による課題あり) 1 5 筆記試験及び解説 	
成績評価の方法・基準	筆記試験100%	
テキスト	<p>【教科書】 系統看護学講座 成人看護学[4]血液・造血器、[11]アレルギー 膠原病 感染症、 緩和ケア、がん看護学、臨床外科看護各論 医学書院 e テキスト</p> <p>【参考文献】 適宜講師より紹介</p>	
履修上の注意事項		

科目名：成人看護学方法論Ⅲ (生涯にわたるセルフコントロールを必要とする人の看護)		配当年次 2年	開講時期 2年前期
単位・時間：1単位(30時間)		授業の方法：講義	
担当者：池田 身佳 久保田 啓文		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>	
特定看護師・集中ケア認定看護師として実務経験のある看護師が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行う。			
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 生涯にわたるセルフコントロールを必要とする疾患を持ちながら、社会で役割を担っている成人期の人が、働きながら病気と共存していくために、疾患を適応していく過程とセルフケアを促進するための看護を理解し、社会復帰に向けてエンパワーメント・エデュケーションを学ぶ。 さらに成人期に発症しやすい疾患を中心に、事例を活用しながら社会復帰に向けての看護と演習を通して考察を学んでいく。 【目標】 1. 成人期にみられる慢性的な疾患の特徴を理解する。 2. 働きながら病気と共存していくことで、日常生活や仕事及び家業への影響を理解する。 3. 慢性的な疾患をもちながら生活している成人期にある人が、早期に社会復帰できるように退院指導及び継続看護について習得する。		
授業の計画	1. 2. 消化・吸収障害時の看護 3. 4. (1) 消化器疾患を持つ患者の特徴と看護 5. 6. (2) 胃がん患者の看護 7. 8. (3) 大腸がん患者の看護 (4) 胆嚢疾患がある患者の看護 (5) 肝疾患患者の特徴と看護 (6) 手術療法を受ける患者の看護(虫垂炎、ヘルニア) (7) 事例を用いて退院指導(パンフレット作製) 9. 10. 内分泌機能障害時の看護 11. 12. (1) 医療の動向と看護～家族の援助～ 13. 14. (2) 視床下部、甲状腺ホルモン ACTH、コルチゾル系 (3) GH-IGHF系、ADH系レニン・アンギオテンシン系、副腎髄質系 (4) 甲状腺疾患・看護、症状とその病態生理、術前・術後の看護 (5) 甲状腺手術を受ける患者の看護、副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症、アルドステロン、クッシング症候群、褐色細胞腫 (6) 総まとめ 15 筆記試験及び解説		
成績評価の方法・基準	筆記試験80%、事例による関連図・計画立案 パンフレット作成20%		
テキスト	【教科書】 系統看護学講座 成人看護学[5]消化器、[6]内分泌・代謝 医学書院 e テキスト 【参考文献】 系統看護学講座 別巻クリティカルケア看護学 医学書院 e テキスト		
履修上の注意事項			

科目名：成人看護学方法論Ⅳ (生活行動に障害のある人の看護)		配当年次 2年	開講時期 2年後期
単位・時間：1単位(30時間)		授業の方法：講義	
担当者：岡田 歩美		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 社会的な責任が要求される成人期にある人が、生活行動に障害を生じることは、様々なストレスや危機に遭遇するだけではなく、ライフスタイルや役割の変更を余儀なくされるため、本人およびその家族も病気を理解でき、障害に適応した生活が継続できるような看護を学ぶ。 【目標】 1. ボディイメージ変化を生じた人の抱える苦痛と不適応を引き起こすことを理解する。 2. 障害による生活行動障害及び社会的問題を理解する。 3. 状況の変化に伴う人の痛み・不安・ストレス・危機・うつ状態・喪失体験・悲嘆・防御反応について学ぶ。 4. 障害による合併症の予防と社会復帰を目指すための看護を理解する。		
授業の計画	1. 2. 3. 4 ボディイメージの変容のある患者の看護 自己概念／ボディイメージ／フィングの危機理論 皮膚疾患のある患者の看護 皮膚の構造・働き／熱傷患者の看護 褥瘡ケア 発生のメカニズム／看護ケア 5. 6. 7. 8 大腸がんの基礎知識 大腸の構造と働き／スクリーニング、診断治療の流れ／術後合併症と看護ケア ストーマ造設患者の看護 身体的・心理的变化／ストーマサイトマーキング ストーマ管理（スキんケア・パウチ貼付・交換）／ 段階的セルフケア指導 9. 10 子宮頸がんの基礎知識 病態／検査・診断／治療／看護 子宮体がんの基礎知識 病態／検査・診断／治療／看護 婦人科手術の合併症と各期における看護 11 がん医療の動向、不安を緩和するコミュニケーション、ACP、子宮頸がん 12 子宮体がん、病態・治療、婦人科手術の合併症とケア 13 乳がんの診断・検査・治療、周手術期・終末期における看護 14 治療によって生じる副作用に対するセルフケア、アピアランスケア 15 筆記試験及び解説		
成績評価の方法・基準	筆記試験100%		
テキスト	【教科書】 系統看護学講座 成人看護学[5]消化器、[9]女性生殖器、[12]皮膚、臨床外科看護総論、臨床外科看護各論、がん看護学 医学書院 e テキスト 【参考文献】 適宜講師より紹介		
履修上の注意事項			

科目名：成人看護学方法論Ⅴ (成人特有の疾病をもつ人の看護)		配当年次 2年	開講時期 2年後期
単位・時間：1単位 (15時間)		授業の方法：講義	
担当者：阿佐美 夕姫		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>	
実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行う。			
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】 成人期に多い疾病を持っている人のペーパーペーシエントを用いて、科学的な視点でアセスメントし、健康上の課題に対応する能力を養うため、専門基礎分野・専門分野Ⅰでの既習知識の活用と成人看護学概論・保健、方法論Ⅰ～Ⅳで修得した知識を統合して看護展開をする。</p> <p>臨床の現状や対象の個別性に即した看護を学ぶことで成人・老年看護学実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳへ反映できるような思考・看護過程を学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象を理解するために必要な学習を理解する。 2. 成人期の特徴および疾病の特徴を理解する。 3. 必要な情報をもとに、看護の視点でアセスメントする能力を養う。 4. 看護上の課題が明確になり、課題に対応するための計画立案ができる。 		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例紹介／関連する知識／病態・情報関連図 2. 3. 情報関連図／様式にて情報の説明 (原因・誘因、なりゆき、看護の方向性) 4. 全体像の把握：情報関連図／看護問題の明確化／優先順位の決定 5. 看護計画の立案 (成果・目標・OP・TP・EP) 6. 7. 行動計画 (追加情報により経過に応じた看護) 8. 筆記試験／まとめ 		
成績評価の方法・基準	筆記試験 80%、個人展開の提出物 20%		
テキスト	<p>【教科書】 系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論：医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 NANDA－Ⅰ：医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断：ヌーヴェルヒロカワ</p> <p>【参考文献】 事例内容によって異なるため、授業にて提示する。</p>		
履修上の注意事項	なし		